

北九州ESD協議会会員によるアンケート結果の概要

1. 調査方法

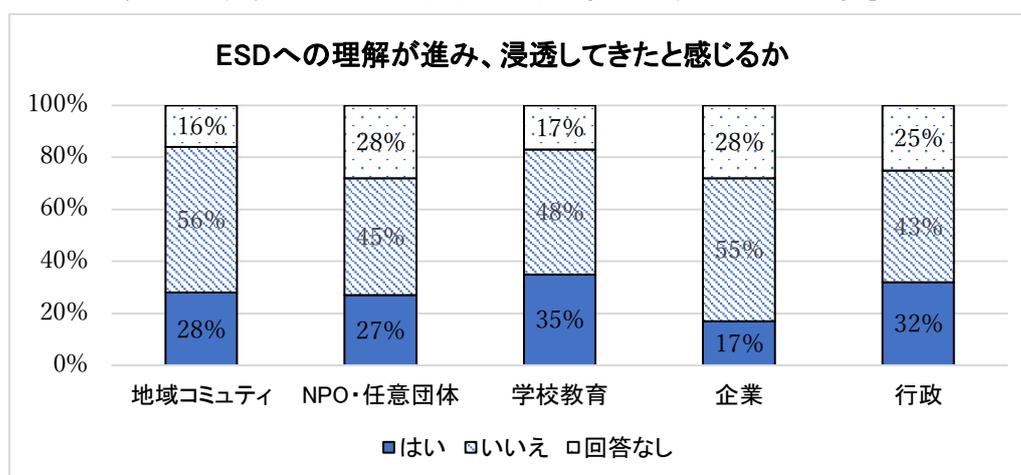
北九州ESD協議会の会員の計80団体にアンケート調査（別添資料A）を依頼した。

2. 調査結果

アンケートの結果、協議会委員会会員23団体から回答を得た。

(1) ESDの理解・浸透状況

「地域コミュニティ、NPO・任意団体、学校教育、企業、行政におけるESDへの理解が進み、浸透してきたと感じますか。また、その理由は。」



その理由

	「はい」と答えた理由	「いいえ」と答えた理由
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ESDを意識した事業が増えていると感じる ESDに関するプログラムが多くなった 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的なものがわからない ESDの言葉が浸透していないと思う ほかの活動がわからない
NPO・任意団体	<ul style="list-style-type: none"> 関心のある団体が増加 SDGsが浸透してきて、ESDもおのずと浸透してきている 	<ul style="list-style-type: none"> 情報が入らない ESD活動の理解度が低い 他団体の活動が見えない
学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ESD/SDGsに関連した学習プログラムを積極的に取り入れている 小中学校だけでなく、SDGsを学ぶ高校が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 活動はしていると思うが、理解が進んでいるかわからない 小学生にESD/SDGsの話をして、初めて聞いている様子だった
企業	<ul style="list-style-type: none"> 「CSR」から「サステナビリティ」に変更してきている 取り組んでいる企業はイメージアップにつながっている 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの取り組みは増えてきているが、ESDとどう関連づけられているかが不明
行政	<ul style="list-style-type: none"> ESD関連の事業を数多く実施していると感じる 市をあげて環境問題に取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 市民にとって難しい、分かりづらい 積極的な取り組みが見えてこない

「地域コミュニティ、NPO・任意団体、学校教育、企業、行政におけるESDへの理解が進み、浸透してきたと感じますか。また、その理由は。」の問いに対し、企業を除くステークホルダーにおいて、約3割以上が「理解が進み、浸透してきたと感じている」と回答。その理由としては、「ESDを意識した事業が増えていると感じる」「関心のある団体が増加」など少しずつESDを意識し、活動している市民が増えていることがわかる。また「SDGsが浸透してきて、ESDもおのずと浸透きていると感じる」とSDGsとともに市民への意識が高まっていると考えられる。

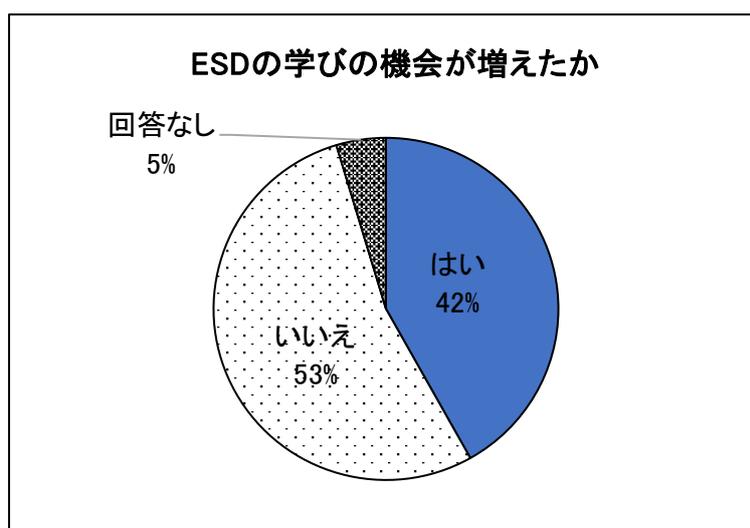
特に最も理解・浸透が進んでいると感じられた学校教育においては「ESD/SDGsに関連した学習プログラムを積極的に取り入れている」や「小中学校だけでなく、SDGsを学ぶ高校が増加」と教育者におけるESD/SDGsへの実践がうかがえる。

しかし、どのステークホルダーにおいてもESDの理解・浸透度について5割前後が「いいえ」と回答しており、その理由においては「ESDが難しい、分かりにくい」「情報が入らない」「他がどのようなESD活動しているかわからない」など周知、広報が至っていないと考えられる。

企業においては、理解・浸透度は17%にとどまっているが、「企業においてSDGsの取り組みは増えてきているが、ESDとどう関連づけられているかが不明」などESD/SDGsの関係性で混乱しているように見られる。

(2) ESDに関する学びの機会について

「持続可能な社会づくりに向けた課題解決の取り組みなど、ESDに関する学びの機会が増えたと思いますか。」



その理由

「はい」と答えた理由
<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsのステッカーなどのPRも目にすることが増え、ESDへの関心も高まってきているのではないか(市民団体・NPO) ・SDGsに関する講演会などの情報が増え、ESDに関する学びの機会が増えていると感じる(研究機関) ・「どうして」と疑問を持つようになった(教育関係) ・意識して学ぼうとアンテナを張るようになった(教育関係) ・研修や地域の場に前向きに参加するようになった(教育関係) ・地元での多くの他団体との交流の場で、ESDをアピールする場が広がっている(市民団体・NPO) ・学校教育でも取り上げている(教育関係) ・SDGsの1つとしての「教育」の認識が、SDGsの広まりと結びついてESDとしての学びの機会が増えた(企業)
「いいえ」と答えた理由
<ul style="list-style-type: none"> ・意識していないためか、感じたことがない(教育関係) ・知らない人が多いと思う(教育関係) ・市民への呼びかけが少ないと思う(教育関係) ・ESDに関する掲示物やPRを見たことがないから(教育関係) ・具体的に自分自身が理解できていない(教育関係) ・ESDというよりSDGsに関する学びの機会が増えたと思う(研究機関)

「持続可能な社会づくりに向けた課題解決の取組など、ESDに関する学びの機会が増えたと思いますか。」の問いに対し、42%が「はい」と回答している。

その理由として、「SDGsのPR」など視覚的に訴える機会が増え、また「研修」や「SDGsの講演会」などの情報も増えたという回答が見られ、学びに接する機会が増えたことによるものが大きいと思われる。

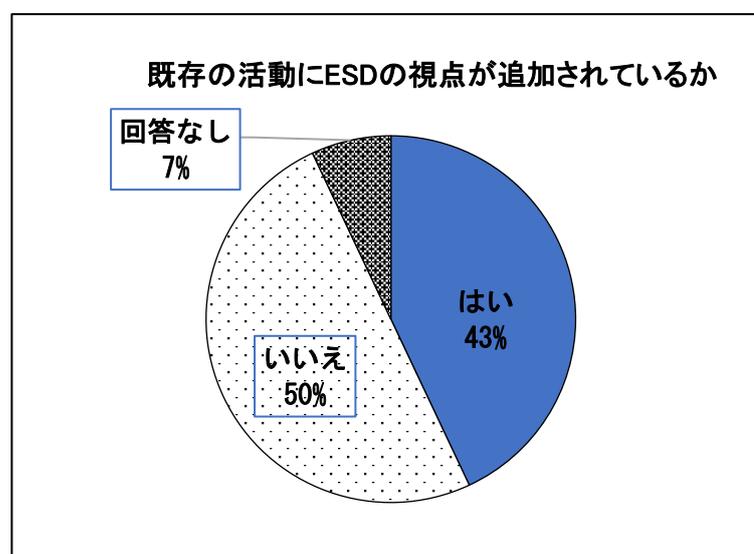
また、個人の中での学びたいという気持ちの高まりが、日常生活において「疑問を持つようになった」や「アンテナを張るようになった」など積極的な研修への参加や、他へ活動のPRを行えるようにESDとして行動変容していることがアンケートの結果から推測できる。

反対に、学びの機会が増えたとは思わない人は、半数以上の53%おり、その理由として「知らない人が多いと思う」、「呼びかけが少ないと思う」などが多かった。

これは、問1と同様に周知・広報が不足していること、通常の周知・広報していても届かない人がいるため、広報ツールを拡大するなどその市民への方法を今後検討する必要があると思われる。

(3) 既存の活動におけるESDの追加について

「より良いまちを目指して既に取り組みされている活動にESDの視点がプラスされてきていると感じますか。」



その理由

「はい」と答えた人が感じる活動

- ・清掃活動(教育関係)
- ・資源ごみの回収(教育関係)
- ・風力発電の実施(教育関係)
- ・子ども食堂の取り組み(市民団体・NPO)
- ・さまざまなセミナー、会議、体験など草の根的な活動(市民団体・NPO)
- ・気が付かないうちに取り組んでいることに気づいた(教育関係)
- ・エコ活動等が自然と身についてきていると感じる(教育関係)
- ・SDGsの取り組みが増えることで、ESDの視点も加わった(研究機関等)
- ・市民も企業も少しずつだが、持続可能な社会に理解を示し、活動を始める個人や団体も増えつつある(研究機関等)
- ・もともとまちづくりや市民団体の活動は、ESDの考え方を持って活動している(市民団体・NPO)

「いいえ」と答えた人が感じるESDの視点が追加されることが進まない理由や課題等

- ・意識していないためか、感じたことがない(教育関係)
- ・わからない(教育関係)
- ・難しく感じてしまい、理解できない(教育関係)
- ・具体的に何が行われているのかが分からない(教育関係)
- ・もっと取り組みをPRする必要がある(教育関係)
- ・ESDの広報活動が足りない(市民団体・NPO)
- ・一般的に浸透していない(教育関係)
- ・まちづくりのリーダー等への研修が必要(市民団体・NPO)

「より良いまちを目指して既に取り組まれている活動にE S Dの視点がプラスされてきていると感じますか。」の問いに対し、43%が「はい」と回答している。

「はい」と答えた人が感じる活動とは、具体的に「清掃活動」「資源ごみの回収」など身近で一般的に行われてきた活動や、「風力発電」など市において取り組んでいる内容にE S Dの視点を感じるようになったものもあった。

また、「さまざまなセミナーや会議、体験などの草の根の活動」、「気が付かないうちに取り組んでいる」など、意識こそはしていなかったが気が付いてみればE S Dの視点がプラスされていたという意見が目立つ。

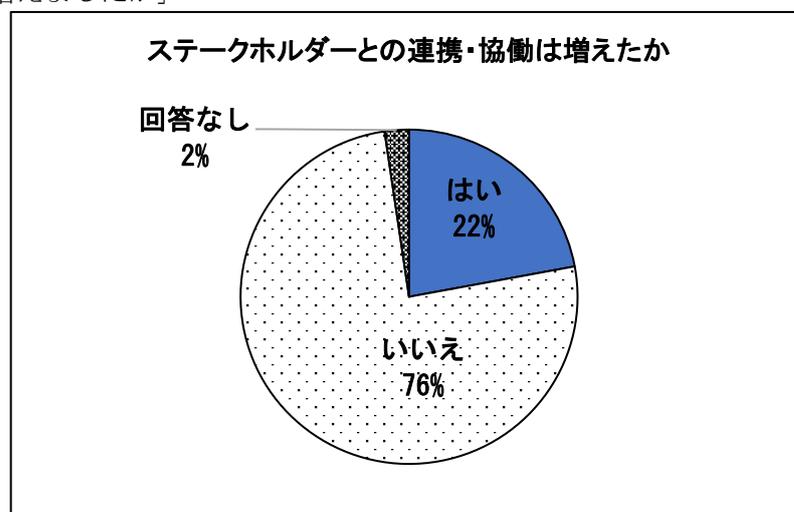
また、「SDG sの取り組みが増えることで、E S Dの視点が加わった」と感じている人もいる。

一方で、E S Dの視点が追加されているかの問いに「いいえ」と回答した人は、半数の50%で、その理由としては、自身の活動だけでは、E S Dを感じる機会が少なく、E S Dの取り組みに十分にふれていないため、理解が進んでいないことと関連していると考えられる。

また、周知・啓発とともに、「まちづくりに取り組むリーダーへの研修が必要」という意見もあった。

(4) ESDのステークホルダーとの連携・協働について

「ご自身の活動において、国内外のESD関連組織等(ステークホルダー)との連携・協働が増えましたか」



その理由

「はい」と答えた人の連携・協働

- ・環境保全活動を通して関係団体や小中学生など(市民団体・NPO)
- ・子どもに関する交流を通して、海外のコーディネーター(市民団体・NPO)
- ・韓国の平和団体との交流に参加し、平和について関係団体と連携ができた(市民団体・NPO)
- ・ジェンダー平等に関して研究者や企業、大学生との協働事業が増加(研究機関等)
- ・JICA研修生との交流(市民団体・NPO)
- ・NPOや地域団体とのボランティア活動や次世代育成、地域課題解決への取り組み等に連携・協働する活動が行われるようになった(企業)
- ・SDGsの取り組みが企業でも活発になってきて、その過程でさまざまなステークホルダーとの連携が増えてきた(企業)

「いいえ」と答えた人が考える連携・協働が進まない理由や課題等

- ・自分自身が理解できていない(教育関係)
- ・どことどのように連携すればいいのかわからない(教育関係)
- ・方法、手段がわからない(教育関係)
- ・時間が取れず、取り組めていない(教育関係)
- ・現状の活動で手が回らない(市民団体・NPO)
- ・場を提供されても、人材が限られている(市民団体・NPO)
- ・これまでの経験で他と連携することがあまりなかった(行政関係機関)

「ご自身の活動において、国内外のESD関連組織等（ステークホルダー）との連携・協働が増えましたか。」の問いに対し、22%が「はい」と回答している。

「はい」と答えた人の連携・協働がどのようなものだったかについては、具体的に「環境保全活動を通して関係団体や小中学生など」「ジェンダー平等に関して研究者や企業、大学生との協働事業が増加」など今までに行ってきた活動において、他のステークホルダーと連携・協働を行うようになったものや、「韓国の平和団体との交流」「JICA研修生との交流」などESDならではの海外との連携が広がっているものもあった。

また、企業においてはSDGsの取り組みが増えることにより、その過程において「NPOや地域団体とのボランティア活動や次世代育成、地域課題解決への取り組みに連携・協働する活動が行われるようになった」など、今後もSDGsが発展するなかで広がりが期待できる。

一方で、ステークホルダーとの連携・協働が増えていないと答える人は、76%あり、今までの問いと同様に「理解ができていない」、「どう他の団体と連携・交流したらいいのかが分からない」という回答に加えて、「時間」「人材」不足のため、他との連携・協働までに進められないという回答であった。

(5) 若い世代との交流・次世代育成について

「ご自身の活動において、若い世代との交流や人材育成の現状と課題を教えてください」

現状
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップなどで関わることもある ・あまり若い世代と交流する機会がない ・地域の行事への参加、ボランティア体験などを通して共にイベント等を行う ・交流を通して、話し合い励ましあい、意見交換をして人材育成に努める ・若い世代の意見や考えを取り入れていく ・今までの経験や知恵を若い世代に理解できるようにつないでいきたい
課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動を担う人はほとんどが高齢者で世代交代が進んでいない。若い世代に裾野を広げていく必要がある ・若い世代との相互理解が課題 ・イベントへの若い世代の参加が少ない。アプローチの方法が課題 ・大学生等と交流が始まるが、卒業・就職により継続が難しい ・じっくりと本音で話をする時間が確保できていない ・交流する機会が少ない ・他業種、異世代と交流する場が増えるといい ・世代間での考え方に違いがあるので、お互いの考え方を尊重しながら進めていかないといけない ・達成感や考えに相違がある。「人材育成」は難しいと感じる

「ご自身の活動において、若い世代との交流や人材育成の現状と課題を教えてください」の問いに対し、「現状」としては、インターンシップやイベントでの交流のほか、自身の活動においてあまり若い世代と交流する機会がない中でも、イベントなど通じて意見交換を行い、若い世代の考えを取り入れていきたいという意見があった。

これは、「課題」に見られるように、自身の活動は高齢者が多く世代交代が進んでいないため、若い世代に広げていきたいという思いからかもしれない。

一方で、世代間での達成感や考え方に相違を感じている人もおり、互いを尊重して進めなければ、人材育成は難しいと感じている。

また、イベントなどで学生との交流が進んでも、卒業・就職で継続が難しいとも感じており、世代間の交流や次世代育成について、若い世代との「じっくりと本音で話をする時間を確保」する必要があるという意見も見られた。

(6) 新アクションプラン策定に望むもの

「新アクションプラン策定にあたり、ご意見等ございましたらご記入ください」

意見

- ・これまでの活動を維持できるようにしていただきたい
- ・パートナーとしての活動を増やし、相互につなげる学びの環を広げたい
- ・協議会設立して10年以上経過し、協議会に『自立した団体として成長』
- ・やわらかで、のびのびとしたプランを望む
- ・ESD人材の育成・発掘について、どう進めるか計画にいれてほしい
- ・SDGsの活動の中に、ESDをどう位置付けるか明確にすることが必要
- ・現計画に、SDGsとの統合できる部分は統合した指標を設けるといいのでは
- ・事務局の体制を維持して、各プロジェクト間の情報共有が増えるもの
- ・わかりやすく、親しみある名称があるとよい

「新アクションプラン策定にあたり、ご意見等ございましたらご記入ください」の問いに対し、「これまでの活動を維持できるようにしていただきたい」や、「協議会設立して10年以上経過し、協議会に『自立した団体として成長』」、「相互につながる学びの環を広げたい」や「各プロジェクト間の情報共有」を求める意見があった。

また、「SDGsの活動の中に、ESDをどう位置付けるか明確にする」、「SDGsとの統合できる部分は統合した指標を設ける」など、「SDGs」と「ESD」の関係性を明確にすることは、望まれている。

新アクションプランが、さまざまなステークホルダーで構成される当協議会にあって、「やわらかで、のびのびとしたプランを望む」というように、包括的で柔軟に対応できるプランであることが望まれている。